

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書（平成 27 年度前期）

平成 27 年 7 月 17 日（金）

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員会作成

平成27年度 第1回敷島中学校評議員・学校関係者評価委員会合同会議

実施日：平成 27 年 7 月 17 日（金） 午後 4 時 00 分～

会 場：敷島中学校校長室

参加者：（学校評議委員 兼 学校関係者評価委員） 河西 壽人 [委員長]，
五味 和恵，小林 淳，市川 和美，
（学校関係者評価委員） 五味 勝己，
（学校側） 海野 武仁 [校長]，岸本 貴志 [教頭]

I 学校側から提案された資料

- ・平成27年6月実施の教職員による自己評価，生徒アンケート，アンケートの分析結果及び課題点と改善策を示した「自己評価書」
- ・「創甲斐教育推進大綱」に示された学校教育の充実に関する平成31年度目標数値に対する本年度前期及び昨年度の比較とその改善策
- ・自己評価シート集計結果表（前年度前期・後期，甲斐市全体との比較）
- ・生徒アンケート集計結果表（前年度前期・後期，甲斐市全体との比較）
- ・学校の概要及び生徒の現状について

II 協議された主な内容

学校側から提示された自己評価書及び生徒アンケートの結果に基づき，本校の教育活動や学校運営の状況の分析について，課題点が正しく把握されているか，改善策が適切であるか等について協議した。また，学校運営に関することや生徒の様子，今日的な教育課題等についても意見交換した。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

教職員による自己評価は，46項目すべてにおいて肯定的評価（A評価またはB評価）であり，全体の7割以上がA評価と肯定率が高い。概ね良好であるが，学習面等での課題も明らかになっているので，全教職員が共通理解し，課題改善に向けた継続的な取組を期待したい。

また，学校運営の工夫・改善を進めるためにも，PDCAサイクルを基調とした取組を管理職のリーダーシップの下で推し進めてもらいたい。

学校における大きな機能，責任は，①生徒の健康・安全，②学力を身につけさせることである。学校評価は“宝の山”である。結果を今後の教育活動に生かして行ってほしい。

II 特 徴

- ・校長の経営方針，教育理念を全職員が共有し，学校教育目標や指導重点を踏まえた教育活動を組織的，計画的に行っている。
- ・学校運営については概ね良好ではあるが，教職員一人一人が主体的に学校運営に参画していくという意識をさらに高めていきたい。
- ・学ぶ環境を整え，基礎基本や意欲を重視した授業が行われている。学ぶ習慣づくりや家庭学習の充実に向けての取組に力を入れる必要がある。
- ・教育活動全体を通して，「報告・連絡・相談・確認」が組織的に行われ，課題に対して迅速な対応が行われている。
- ・生徒アンケートの結果は前回（H26後期）に比べ，肯定的回答率が上昇している。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・平成30年度から大学入試制度が変わる。（今の中3世代）高校では宿題の量が増える傾向がある。今のうち（中学校の頃）から家で学習する力を身につけさせていく必要がある。
- ・家庭学習の充実に向けては，教科間の連携・調整を含め，今後さらに研究を進めていく必要がある。
- ・「できなかったことができた」「わからなかったことがわかった」といった体験を授業の中でさせていくことが重要である。
- ・不登校や自学教室に通う生徒は，いろいろな人が関わることを通して自分を見つけるきっかけになるといいし，それが次につながってくる。たいへんだと思うが，子どものためにも継続してほしい。
- ・学校ではいろいろやらなければならないことがたくさんある。その中で先生は忙しさの中でもがいている。学校が学校として機能していくためにも，校長・教頭が強いリーダーシップを発揮してほしい。

※特記事項（意見交換の中で出されたもの）

- ・子どもが学びたくなるような授業づくりをすすめてほしい。
- ・宿題は小学校は多く，中学校は少なくギャップがある。小中の連結を考えると，小学校と中学校で宿題についての情報交換をする必要がある。
- ・登下校時に校門前に交通指導員の配置を要請できないか。
- ・自転車に関する苦情が多いとのことだが，苦情があるから指導するのではなく，命を守るための指導であってほしい。
- ・高校に入学してくる時点で，中学校での理科実験の量に学校差がでてきているという話を聞く。実験・観察等の体験的な活動を今後も大切にしてほしい。

記載責任者 （甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員会）

委員長 河西 壽人 ㊞